

教育研究所だより

No.220 令和2年9月25日 【発行者】守山市教育研究所 所長 西川 典子
守山市勝部三丁目9番1号（守山市生涯学習・教育支援センター 愛称：エルセンター3・4階）
TEL：077-583-4217 FAX：077-583-4237
E-mail：kyoikukenyu@city.moriyama.lg.jp
HP：http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenyu_index.html

守山市制 50 周年を迎えて

守山市制 50 周年記念誌
編集委員長 山川 芳志郎

市制 50 周年記念誌の作成に関わらせていただいた中で、特に心に残った事を挙げさせていただきます。



(1) 初代北川俊一市長が、「道をつくって街をつくる」という基本理念を掲げ守山市は昭和 45 年にスタートしました。北川市長と北田昇議長が握手をする場面は印象深い一場面です。この理念を踏まえて市政運営に当たって来られたことが、現在の秩序ある街並みにつながっています。

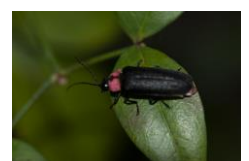
(2) 4代山田亘宏市長は、「小学校に入学した1年生や2年生が40人という大所帯の中では、先生と一回も話さず帰宅する子どもがいる。少人数学級を実現して、これを解消したい。」との理念を掲げられました。私は大賛成でした。県教育委員会教職員課から研究指定地域として認められたことで、一学級を上限 32 人とする少人数学級が実現しました。



その翌年、「特区申請制度」を利用し、現在の少人数学級事業が実現しました。私の後任である上路 博教育長は「不登校の子どもが増加が目につく。3年生まで少人数学級を延長したい。」として、1～3年生までの少人数学級を実現されました。

(3) 記念誌をつくる過程で、50 年にとどまらない歴史の重みを感じるがありました。

- ① 大正 11 年 5 月 5 日、全国で最初の青少年赤十字が守山小学校で結成。それから約 100 年たった現在も、守山小学校を中心に市内の学校・園に脈々とその精神が受け継がれています。
- ② その昔、ゲンジボタルが市内のあちこちで乱舞し、天皇陛下に献上されていました。ところが開発が進んだ影響で、河川の水が汚れてしまい、一時、ゲンジボタルが全滅しました。「これでは大変」と市民が立ち上がり、現在では街中にホタルが飛び交う姿が見られます。
- ③ 守山市は、暴れ川と言われていた「野洲川」に苦しめられながら、生活してきた過去があります。昭和 54 年に、野洲川の北流、南流の真ん中に一本の通水路ができ、以降、堤防の決壊はなくなりました。しかし、この実現のためには幾つかの課題もあり、当時、反対運動をされている女性のスクラム姿の写真が心に残って



います。

私は守山市が大好きです。この小冊子がさらに「住みやすさ日本一を実現できる街」になる道しるべになればと思っています。

研修講座の報告（抜粋）および教育相談等のご案内

| | | | | |
|---|-------------|---|----|------------------------|
| 【中堅教諭等資質向上研修】 【講師】 ① 8月4日 ★学校教育課 植村 俊之 課長 ★中洲小学校 小野田 祐美子 校長 ★教育研究所 西川 典子 所長 ② 8月17日 ★県総合教育センター 中川 恵実子 主査 ★速野小学校 地石 玲子 教頭 | 開催日 | ① 令和2年8月 4日 ② 令和2年8月17日 | 会場 | 守山市生涯学習・教育支援センター(大会議室) |
| | 研修内容・参加者の感想 | ①「教員としての資質向上と自己マネジメント」 「教育相談の視点を生かした支援のあり方」 ②「ミドルリーダーのための組織マネジメント」 「道徳科における授業づくりの工夫」 ・中堅教員として、若手の先生方の指標となれるよう、自分が仕事を楽んでいる姿、子どもとまっすぐ向き合い、子どもを一番に考えながら組織を作っていこうとする姿を見せていきたい。 ・“この先生になら”と生徒に思ってもらえるような、日々の姿勢が大事だと思う。それは、保護者にも当てはまると思うので、教育相談的な視点を常に意識し、生徒にとって居心地のよい教室経営、学年、学校にしていきたい。 ・学校目標達成に向け、何ができるのかを考えながら動けるよう意識したい。 ・「何を学ばせ、どんな力をつけるのか」を、教師がしっかりと考え、明確にすることが大切だと感じた。 | | |
| 【第1回研究協力委員会】 【講師】 指導力向上に関する研究1 ★関西学院大学 泉 恵美子 教授 (今回は欠席) 指導力向上に関する研究2 ★立命館大学大学院 春日井 敏之 教授 | 開催日 | 研究1 令和2年7月 3日 研究2 令和2年7月 10日 | 会場 | 守山市生涯学習・教育支援センター(大会議室) |
| | 研究内容等 | 指導力向上に関する研究1 「互いの考えや気持ちを伝え合おうとする力の育成」 単元のゴールにつながる“Small Talk”の工夫 ・研究主題の説明、Small Talkを構成、実施するにあたっての手立てや留意点を確認した。外国語アンケートや授業のふり返しカード等により児童の変容を見取っていく。 ※Small Talk→あるテーマのもと、児童が指導者の話を聞いたり、ペアで自分の気持ちを伝え合ったりする活動 指導力向上に関する研究2 「教育相談の視点を生かした学級活動のあり方」 一人と人がつながる居心地のよい学級を目指して— ・研究主題の説明をおこなうとともにコロナ禍における子どもの様子や、子ども同士のつながりを深める取り組みについて情報共有をおこなった。春日井教授からは、子ども理解を深めることの大切さについてご助言いただいた。 | | |
| 【郷土守山に学ぶ研修講座Ⅲ】 ・守山空襲を想う ・つなごう平和のメッセージ ・守山空襲資料 ・「じゃらん」さんによる朗読劇 (動画配信) | 開催日 | 令和2年7月30日 | 会場 | 郷土守山に学ぶ研修講座 (HPで実施) |
| | 参加者の感想 | 戦争体験世代から ・その日も防空壕をつくる工事を手伝っていた。客車が構内に入ると米軍機が飛来して焼夷弾の投下と機銃掃射を浴びせた。近くの民家は焼かれ、うめき、泣き叫ぶケガ人は牛車、大八車、リヤカーなどに乗せて自宅前の道を通って大宝病院へ運ばれていった。戦争の恐怖と悲惨さを身近に感じた出来事であった。 | | |

【教育相談】

学校不適應や子育て等に悩みや不安を抱える保護者や児童生徒対象に、電話および面接による教育相談を行っています。今年度は、ソーシャルディスタンスの確保、換気の徹底など新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら面接相談を行っています。ご活用ください。

【適応指導教室（くすのき教室）】

不登校をはじめ、学校不適應の児童生徒を対象に、適応指導および教育相談を実施することにより、学校生活への復帰や社会的自立に向けて支援します。また学校や他機関との連携や保護者への支援も行います。今年度は消毒の徹底など新型コロナウイルス対策をとりながら、適応指導教室を開室しています。

お知らせコーナー

「つなごう平和のメッセージ・朗読劇等」のCD版を小学校9校・中学校4校に配布いたしました。平和学習の一環としてご活用ください。